



## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2023年11月7日 配当支払開始予定日 2023年12月11日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	46,162	7.6	323	—	647	194.7	458	273.3
2023年3月期第2四半期	42,920	△2.9	△275	—	219	△89.1	122	△91.1

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 535百万円 (—%) 2023年3月期第2四半期 △100百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	19.10	—
2023年3月期第2四半期	5.12	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	88,247	53,763	60.9	2,237.88
2023年3月期	87,630	53,540	61.1	2,228.59

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 53,763百万円 2023年3月期 53,540百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	13.00	—	13.00	26.00
2024年3月期	—	13.50			
2024年3月期（予想）			—	13.50	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	102,000	4.7	3,000	85.9	3,200	74.1	2,200	100.6	91.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	27,700,000株	2023年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	3,675,659株	2023年3月期	3,675,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	24,024,381株	2023年3月期2Q	24,024,387株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進展しインバウンド需要や個人消費が持ち直したことから緩やかな回復基調で推移したものの、ロシア・ウクライナ情勢の長期化とそれに起因する物価上昇など景気下振れリスクが存在する先行き不透明な状況が続きました。

菓子・飲料・食品業界は、為替の円安進行と原材料・エネルギー価格の高止まりが続く中で、実質賃金の伸び悩みにより高まっている消費者の節約志向への対応も求められました。

このような状況下、当社グループは食品製造企業として一貫して品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、選別消費傾向が進む中、価格と付加価値のバランスを高めた魅力のある商品開発や、パーソナル需要からファミリーユース需要にまで対応した豊富な品揃えなど消費者から求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組みました。あわせて、企画提案型の営業活動と店頭フォローを積極的に行い、お客様の笑顔と満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、チョコレート品目やキャンデー品目に加え、ファミリーサイズ商品群や「プチ」シリーズなどが順調に推移したことから売上高は前年同期を上回りました。

利益面では、原材料ならびにエネルギー価格上昇の影響による売上原価の増加があったものの、生産性向上とコストの削減、経費の効率的な使用や商品出荷価格の改定および規格変更等を実施し適正利益の確保に努めたことなどから、営業利益は前年同期を上回りました。また、為替差益や投資有価証券売却益により経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回りました。

### 営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、44,151百万円（対前年同期比107.8%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、ちょっと上質な「プチプライム」シリーズに、「プチプライム加賀棒ほうじ茶ショコラケーキ」などの新商品を発売しシリーズ全体の底上げを図りました。また、パーティプスイーツ商品群ではレモンティーの風味に仕立てた「芳醇紅茶のパウンドケーキ」を、加えて「チョコあ〜んぱん」シリーズでは「チョコあ〜んぱんしあわせキャラメル味」などを発売し、豊富な品揃えによる個食需要への対応を図りました。さらには、バナナフェアや芋・栗フェア、ハロウィン商品など季節・催事に合わせた展開による売場活性化にも取り組みました。健康志向への対応として、糖質オフ商品「カーボバランス」シリーズのリニューアルと同時に、「カーボバランス焦がしキャラメルケーキ」を発売し品揃え強化を図りました。ファミリーサイズ商品群や「エリーゼ」シリーズなどもご支持をいただき、品目全体では順調に推移しました。

キャンデー品目は、「キュービィロップ」に催事商品「キュービィロップ甘消しマジックキャンデー」を発売しブランド認知の向上を図りました。「フェットチーネグミ」シリーズでは、つぶつぶ苺味やシャインマスカット味の発売による品揃え強化や、全国農業協同組合連合会とのコラボレーション商品を共同開発し、付加価値を高めた商品開発に取り組みました。

チョコレート品目は、発売20周年を迎えた「アルフォートミニチョコレート」シリーズに、発酵バター香る「アルフォートミニチョコレートサブレ」を新発売したことに加え、季節ごとの商品展開と継続したプロモーションによるブランド強化を図りました。袋チョコレート商品群では、「ひとくちルマンド」シリーズで期間限定商品を展開したほか、フリーズドライ苺を加えた一粒チョコレート「きゅんと濃苺」やラム酒の香りが広がるトリュフチョコレート「ラム酒のトリュフ」を発売し品揃えの充実を図りました。

ビスケット、スナック、米菓など多彩な品揃えで選ぶ楽しさを提供する「プチ」シリーズでは、夏向け商品の展開と「プチチョコ&全粒粉」等の新商品の発売による品揃え強化を図りました。同時に、行楽およびイベントに合わせた積極的な売場展開を行ったことに加え、継続したプロモーションを実施しシリーズの活性化とブランド強化を図りました。

菓子全体では、前年同期を上回りました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は、2,011百万円（対前年同期比102.0%）となりました。

飲料品目は、既存品が順調に推移したことに加え、ココナッツミルク商品やキャラクターをデザインしたミネラルウォーター商品群が、インバウンド需要の復調からご支持をいただきました。

食品品目は、「かんたんクッキング」シリーズをリニューアルするとともに、「のせて焼くアップルパイ風シート」を発売し品揃えの強化とシリーズの活性化を図りました。また、粉末ココア商品では、節約志向の影響から企業のプライベートブランドで展開している商品の需要が高まりました。機能性食品群では、日本人に必要と言われている3種類の栄養素をバランスよく配合したパーティタイプの「MITASEココア味」を発売し、時短などのニーズにお応えした商品展開を行いました。カルシウムや鉄分を配合した栄養機能食品がご支持をいただき、腹持ち感にこだわった低GI商品「スローバー」シリーズも堅調に推移しました。

冷菓品目は、「ルマンドクランチアイス」の販売地域を拡大し商品認知の向上を図ったことに加え、植物性ミルクを使用した「やさしいココナッツミルクバー」を発売し、品目全体の底上げを図りました。

飲料・食品・冷菓品目全体では、競争激化の影響で伸び悩んだ商品群があったことから前年同期を下回りました。

その他では、通信販売事業は、季節や催事に合わせた企画商品やECチャネル限定商品などの展開により活性化を図り、リピーターの増加と継続的な販路拡大に取り組みました。

自動販売機事業は、設置場所の改善や配送の効率化、自販機1台当たりの収益性向上に継続して取り組んだほか、新規開拓に努め売り上げの底上げを図りました。

酒類販売事業は、行動制限の緩和に伴い飲食店ルート向け商品や土産用受託商品が順調に推移したことに加え、輸出商品やナショナルブランド商品も堅調に推移しました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は46,162百万円（対前年同期比107.6%）、営業利益は323百万円（前年同期 営業損失275百万円）、経常利益は647百万円（対前年同期比294.7%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は458百万円（対前年同期比373.3%）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は40,753百万円となり、前連結会計年度末に比べ337百万円増加となりました。これは主に、季節変動要因による受取手形及び売掛金の減少と規格変更等による商品及び製品の増加があったことによるものです。固定資産は47,494百万円となり、前連結会計年度末に比べ280百万円増加となりました。これは主に、有形固定資産およびソフトウェアの取得があったことによるものです。

この結果、総資産は88,247百万円となり、前連結会計年度末に比べ617百万円増加となりました。

### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は25,271百万円となり、前連結会計年度末に比べ715百万円増加となりました。これは主に、月末休日の影響による支払手形及び買掛金の増加ならびに賞与引当金の増加と未払費用の減少があったことによるものです。固定負債は9,213百万円となり、前連結会計年度末に比べ321百万円減少となりました。

この結果、負債合計は34,484百万円となり、前連結会計年度末に比べ394百万円増加となりました。

### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は53,763百万円となり、前連結会計年度末に比べ223百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および剰余金の配当があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は60.9%（前連結会計年度末61.1%）となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は16,406百万円となり、前連結会計年度末（16,183百万円）に比べ222百万円増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は2,926百万円（前年同期3,283百万円の支出）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益771百万円および減価償却費2,267百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は2,157百万円（前年同期2,462百万円の支出、対前年同期比87.6%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,283百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は589百万円（前年同期1,504百万円の収入）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出155百万円およびリース債務の返済による支出122百万円ならびに配当金の支払額312百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年4月28日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、本日付で「2024年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	16,183	16,424
受取手形及び売掛金	13,761	10,636
商品及び製品	4,370	7,856
仕掛品	614	702
原材料及び貯蔵品	4,624	4,590
その他	866	545
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	40,416	40,753
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,228	17,238
機械装置及び運搬具（純額）	10,765	12,021
その他（純額）	10,929	9,642
有形固定資産合計	38,922	38,901
無形固定資産		
のれん	748	691
その他	541	781
無形固定資産合計	1,289	1,472
投資その他の資産		
その他	7,002	7,120
投資その他の資産合計	7,002	7,120
固定資産合計	47,214	47,494
資産合計	87,630	88,247

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,913	12,357
短期借入金	2,310	2,310
1年内償還予定の社債	—	100
未払法人税等	491	545
賞与引当金	1,308	1,613
その他	9,531	8,344
流動負債合計	24,555	25,271
固定負債		
社債	100	—
長期借入金	2,676	2,521
役員退職慰労引当金	286	295
退職給付に係る負債	5,500	5,467
負ののれん	11	10
その他	961	918
固定負債合計	9,534	9,213
負債合計	34,090	34,484
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	46,715	46,861
自己株式	△941	△941
株主資本合計	53,600	53,746
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	607	892
為替換算調整勘定	△753	△958
退職給付に係る調整累計額	86	83
その他の包括利益累計額合計	△60	16
純資産合計	53,540	53,763
負債純資産合計	87,630	88,247



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	42,920	46,162
売上原価	33,240	35,905
売上総利益	9,679	10,257
販売費及び一般管理費	9,955	9,934
営業利益又は営業損失(△)	△275	323
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	48	63
為替差益	408	283
負ののれん償却額	0	0
その他	56	40
営業外収益合計	517	390
営業外費用		
支払利息	2	6
持分法による投資損失	—	41
減価償却費	14	12
その他	5	5
営業外費用合計	22	66
経常利益	219	647
特別利益		
投資有価証券売却益	118	157
特別利益合計	118	157
特別損失		
固定資産処分損	8	6
減損損失	2	1
投資有価証券評価損	22	25
その他	4	—
特別損失合計	38	33
税金等調整前四半期純利益	300	771
法人税、住民税及び事業税	223	513
法人税等調整額	△46	△201
法人税等合計	177	312
四半期純利益	122	458
親会社株主に帰属する四半期純利益	122	458

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	122	458
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	44	285
為替換算調整勘定	△283	△205
退職給付に係る調整額	15	△3
その他の包括利益合計	△223	76
四半期包括利益	△100	535
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△100	535
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	300	771
減価償却費	2,152	2,267
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	△51	△66
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	2	6
持分法による投資損益 (△は益)	—	41
為替差損益 (△は益)	△341	△247
投資有価証券売却損益 (△は益)	△114	△157
固定資産処分損益 (△は益)	8	6
減損損失	2	1
投資有価証券評価損益 (△は益)	22	25
売上債権の増減額 (△は増加)	3,602	3,128
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△4,008	△3,521
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,843	1,434
未払費用の増減額 (△は減少)	△1,801	△1,134
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	10	9
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	53	△37
その他	△643	732
小計	△2,592	3,316
利息及び配当金の受取額	51	66
利息の支払額	△2	△6
法人税等の支払額	△739	△449
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,283	2,926
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,587	△2,283
投資有価証券の取得による支出	△56	△104
投資有価証券の売却による収入	278	558
その他	△96	△328
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,462	△2,157
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	2,000	—
長期借入金の返済による支出	△55	△155
社債の発行による収入	99	—
社債の償還による支出	△100	—
リース債務の返済による支出	△139	△122
配当金の支払額	△300	△312
その他	—	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,504	△589
現金及び現金同等物に係る換算差額	86	44
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,154	222
現金及び現金同等物の期首残高	16,793	16,183
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,638	16,406

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。